

村内で新型コロナウイルス感染者が確認された際の 防災行政無線放送の運用方法を変更します！

東海村新型コロナウイルス感染症対策本部では、これまで村内で新型コロナウイルス感染者が確認された際に、防災行政無線放送などで注意喚起等を行ってきました。今後は、村内で集団感染（クラスター）が確認されたときなど、緊急性が高い場合に限り放送します。

なお、これまでどおり、村公式ホームページをはじめ各種公式SNS（ツイッター・フェイスブック・LINE）、村公式アプリ「こちら東海村」では、随時、情報を配信します。また、村内における感染者の発生状況等については「広報とうかい」で定

期的にお知らせします。

村民の皆さんにおかれましては、引き続き感染症対策にご協力をお願いします。

■ 村公式LINEをぜひご利用ください！

7月に運用を開始した村公式LINE。9月10日時点で、約4,300人の方に友だち登録をいただいています。右QRコードより簡単に友だち登録ができますので、この機会にぜひご利用ください。



【問い合わせ】東海村新型コロナウイルス感染症対策本部（保健センター内 ☎282-2797）

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

鍾馗（しょうき）と疫病退散の祈り

東海村文化財保護審議会委員

宮内 教男

寺社だけでなく町屋の風情も京都の魅力です。所用の帰途、コロナ禍で人影が消えた祇園を散策しました。京瓦の屋根に目をやると、通り庇の上に高さ20〜30センチメートルの瓦人形の鍾馗が置かれています。人口の集中する京都は、まさに「3密」。感染症はあつという間に蔓延しました。近世以前は断片的な医療情報しか得られないため、人々は鍾馗の力を信じて疫病退散を願いました。風俗研究で知られる石塚重兵衛（豊芥子）（1799〜1862年）の『街談文々集要』には、京都三条の女房が屋根に鍾馗を飾ったところ病が全快したという話がみえます。もともと、鍾馗は、中国の道教系の神様で、唐の玄宗皇帝の夢の中に現れた子鬼を退治して帝の熱病を治したとの故事から信仰の対象となりました。

村松山虚空蔵堂の本堂裏手には鍾馗霊神堂が建っています。境内に堂を設け、鍾馗を礼拝の対象としているのは全国的にも極めて珍しい事例です。

堂内正面の大型の絵馬（縦1.5メートル



【鍾馗霊神絵馬（村指定民俗文化財）】

ル、横2メートル）に描かれた鍾馗は、長い鬚を蓄え中国の官人の衣装をまとい、大きく眼を見開いて鬼を押しやっています（写真）。延宝3（1675）年、藤原高信（生没年不詳）が杉板に力強く豪快に描いた鍾馗には、今でも白や朱の彩色が残っています。昭和初年まで行われていた「鍾馗さまの村まわり」では、若衆が絵馬を屋台に乗せて練り歩き、人々は「鍾馗さま」に賽銭をあげて疫病退散や厄払いなどを祈りました。現在の鍾馗霊神堂は、常陸後藤流の後藤桂仙（1897〜1963年）が設計し大正13（1924）年に再建されたものです。明治33（1900）年の「村松の大火」で虚空蔵堂が焼失する以前は、本堂外陣の左右に小堂宇が設けられ、それぞれに鍾馗と摩利支天が奉祀されていました。

村松山の鍾馗は約350年にわたって村人の祈りを受け止めてきました。無慈悲に命を奪う疫病は、人知を尽くしても対策には限界があり、人々は神仏に頭を垂れしました。敬虔な祈りという行為に込められた謙虚さ、誠実さ、冷静さ。コロナがもたらした静寂に包まれ、鍾馗霊神堂に手を合わせていると、数々の感染症の脅威を乗り越え、たくましく生き抜いた古の人々の心情が伝わってきます。